
仮面ライダー龍騎、城戸真司が助けた女の子は実は・・・・・。

ゼロディアス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー龍騎、城戸真司が助けた女の子は実は……。

【Nコード】

N7654K

【作者名】

ゼロディアス

【あらすじ】

完全な想像ですので、その辺をご理解ください。

仮面ライダー龍騎の最後の戦いの時に城戸信司が助けた女の子はあの人だった。

これは仮面ライダー騎騎のもう一つの可能性の話です。

(前書き)

初短編です。
暗いです。

まだ私が小さかった頃町中に鏡から出た怪物が人々を襲ってる、私
はお母さんとはぐれてしまい一人泣いていた。
そんな時怪物が襲いかかってきた。

青年

「危ない！」

少女

「!？」

一人の青年が私を庇った。

そのせいで男の人は大怪我をしてしまう。

青年

「うぐ……大丈夫？」

少女

「う、うん。」

青年

「早く、逃げて。」

そして私は男の人にそう言われて逃げる。

逃げる際に男の人を振り向くと……。

青年

「う、ああ、変身。」

男の人は赤い龍のような仮面の戦士になって鏡に入ってしまった。
その後お母さんを見つけ男の人の所に行くとその人は倒れていた。

数年後。

私は今中学校の帰りで友達のカイトテストタロッサ・ハラオウンち

やんと八神はやてちゃんと一緒に帰っていた。

その時丁度花屋の前だったのである事を思い出した。

そうだ、今日のはあの人の命日だ。

私、高町なのはは花屋に向かう。

なのは

「ごめんね、ちょっと寄らせて。」

フェイト

「う、うん。」

はやて

「ええよ。」

そして私は花を買う。

フェイト

「どうしたのなのは？」

はやて

「なんで花なんか買ったんや？」

二人に言われて私は昔の事を話、すると二人とも一緒にその人のお墓に行くと言い、三人であの人のお墓の前に居る。

なのは

「有難う、城戸信司さん。」

そう言っって私は花をお墓に備える。

(後書き)

仮面ライダー龍騎の最終回がよく解らなかつたのでこんな話を書きました。

また色々な短編を連載して書こうと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7654k/>

仮面ライダー龍騎、城戸真司が助けた女の子は実は・・・・・・・・。

2011年10月21日10時29分発行